

山村留学 八坂美麻学園

自然に学ぶ暮らしに学ぶ



公益財団法人育てる会

1968～育てる会

子どもが真の生きる力を獲得するには、
様々な自然体験、生活体験の場が必要！



農家泊を中心とする週末や長期休みを利用した短期活動を展開(9年間)
→年間を通じた体験の場を求める声

1976～大町市(旧八坂村)にて**日本初の山村留学制度スタート**



延べ1400人以上
が巣立つ



47年目(2022年度)

八坂美麻学園の山村留学システム



山村留学センター

約2週間 約10日間



学園併用方式



地域ホームステイ(農家)



集団生活



四季折々の体験活動



地域の暮らし



文化体験



徒歩通学(3~5km)



学校

八坂小・八坂中学校・美麻小中学校



山村留学センター(やまなみ山荘)

◇10日～2週間ごと、年間約175日

◇**学園生31名** 小3～中3
(小18・中13 男17・女14)

◇**指導員6名** 他、厨房スタッフ1名・指導補助2名(非常勤)

◇1年単位で留学 **継続平均2～3年**(継続16名・新入15名)

◇**集団生活・基本的生活習慣**の体得
自律→自立 我慢・思いやり・作法



◇**四季を通じた全体活動**(農作業・自然体験・山村文化体験)
→ 個々の興味関心を追求した**個人体験活動**へ



学校・通学

◇大町市立八坂小学校

11名(留学生)/47名(全児童数)

通学路:片道3.8km



◇大町市立八坂中学校

7名(留学生)/21名(全生徒数)

通学路:片道5.0km



◇大町市立美麻小中学校(義務教育学校)

13名(留学生)/98名(全児童生徒数)

通学路:片道2.5km→スクールバス



・「歩く」通学路

・小規模校ならではの特色ある教育

・コミュニティスクール(学校運営協議会制度)



地域ホームステイ(農家活動・山村生活)

- ◇10日～2週間ごと、年間約135日
- ◇現在8軒(八坂地区5軒・美麻地区3軒)
- ◇1家庭、2～5人の異年齢兄弟姉妹関係
- ◇家族の一員として1年間暮らす「父さん」「母さん」「～兄」「～姉」→家族になる体験
- ◇日々のお手伝いや週末の農作業、地域行事や年中行事にも参加し、農山村の「暮らしを学ぶ」





年間を通じた農作業（四季の体験・労働体験）



➡ 自然への畏れ・自然の恵み・食への感謝



自然の力を全身で感じるダイナミックな体験
(北アルプス登山・キャンプ・船舶活動・古道歩き・スキー・雪遊び・・・)



➡雄大な自然の感動体験・自己に打ち克つ体験



農山村の暮らし・食文化(味噌づくり・野沢菜漬け・おやき作り・古民家生活・炭焼き・林業体験・・・)



➡受け継がれる文化や知恵・文化史的体験



個人体験活動: 個々の興味関心、個性特性に基づき体験を深める



「ここでしかできない体験」「自分の五感で体験」「～らしさ」
➡地域に眠る体験材、受け継がれた知恵、自然の不思議や
人の温かさを体感する



11月収穫祭

(個人体験と全体発表・伝統芸能表現・地域交流の場)



➡協力・達成・自己表現・感謝を伝える体験

学園生の心がまえ

1. 山村留学中は、いつも自分の足で歩くよう努力し、自然の中でたくさん活動し、「ここでしかできないこと」をたくさんします。
2. あいさつや、礼儀作法、言葉づかいに気をつけ、「自分のことは自分でやる」けじめのある生活をします。
3. 山村留学生活に必要なもの以外、必要以上に多く物を持たず、物を大切にし、無駄なお金を使わない「がまん」する生活をします。
4. 食事は好き嫌いなく、残さずよく味わって食べ、感謝の気持ちを忘れないようにします。
5. 自分のことだけでなく、相手の気持ちを考えながら過ごすように努力します。特に、周りで困っていたり、悩んでいる人のことをみんなで考え、お互いを認め合いながら、助け合って生活します。
6. 自分の目標をもって生活し、収穫祭や修園のときには、成長や成果を、自分の言葉と大きな声で堂々と発表します。

育てる会八坂美麻学園 山村留学の理念・目的

自然・暮らしの多様な体験

伝統文化・食文化 苦勞・知恵

親元から離れる 不便・不足

必要最低限の暮らし

異年齢での集団生活

基本的な生活習慣の体得

四季の自然

長い距離歩く

不満

自信・自立

感動・興味関心

子どもの中に形成される力

欲求不満に耐える力

「多少のことはがまん！」

他者の理解・受容する力

「人それぞれの物差しがある！」

活力・モチベーション

「自分はこれをするんだ！
これがしたいんだ！」

子どもが 自分の もって生まれた個性に目ざめ 自信を持ち
それを喜々として 自分の力で 育てていく

ある修園生の声

私は山村留学に来る前、たくさんあること、満ち足りていることが幸せだと思っていた。テレビやゲームがあり、やりたいことを好きなだけやり、友達と楽しいだけの会話をし、ほしいものが手に入ること……。それらが理想形で完全な幸せの形だと思っていた。

しかし4年前、山村留学に行くことを決め、初めの2週間が過ぎたころ、軽い気持ちで飛び込んだ自分を呪った。寂しい。家に帰りたい、人間関係もうまくいかない……。それから**転機**が訪れたのは収穫祭(11月)前。演目である「はねこ」に熱中し、ひたすら練習した。**楽しい！**とそのとき初めて努力する楽しさや充実感を知った。満ち足りた環境では得ることのできない楽しさだった。

それから4年。4年間ではつらいこと、苦しいこと、逃げ出したくなることがたくさんあった。でもそれ以上に、乗り越えたときの幸せや得られるものが大きいことを知った。そして苦しさを乗り越える過程では、苦しさを一歩踏ん張って耐えることが少しずつできるようになった。

山村留学は「不」を学ぶ場所。全くその通りだと思う。不足や不満は私にたくさんのものを与え、成長させてくれた。来年私は都会での便利さがあふれた生活に戻る。それでも、この山留生活で気づいたこと、得たものを大切にしながら、一步一步、前に進んでいきたい。

春



夏



年間を通して、四季の移ろい・変化を全身で感じる日々

秋



冬



山村留学までのステップ

- ① 資料請求または説明会（東京都三鷹駅付近）への参加
 - * 説明会への参加は必須ではありませんが、会場近郊の方はぜひご参加ください
- ② 現地での体験入園に参加（留学を希望される場合は必須です）
 - * 1泊2日で、学園での生活体験と学校見学、指導者と懇談等
- ③ 願書請求
- ④ 親子面接会
- ⑤ 留学決定

年間費用

…小学生：約130万 中学生：約140万
（入園金・施設教材費・月謝）

* その他、個人消費にかかる費用（学用品・衣料品・医療費・PTA会費・学校給食費・特別活動費等）は月謝に含まれず、別途預かり金として、各学園にてお預かりし、必要に応じて支出の上、年度末に精算致します。

…年間15～20万程度

山村留学 八坂美麻学園

問い合わせ先：育てる会東京本部

〒180-0006 東京都武蔵野市中町1丁目6
番7号 朝日生命ビル5F

TEL : 0422-56-0151

FAX : 0422-56-0351

E-MAIL : mado@sodateru.or.jp

<http://www.sodateru.or.jp/>



公益財団法人育てる会